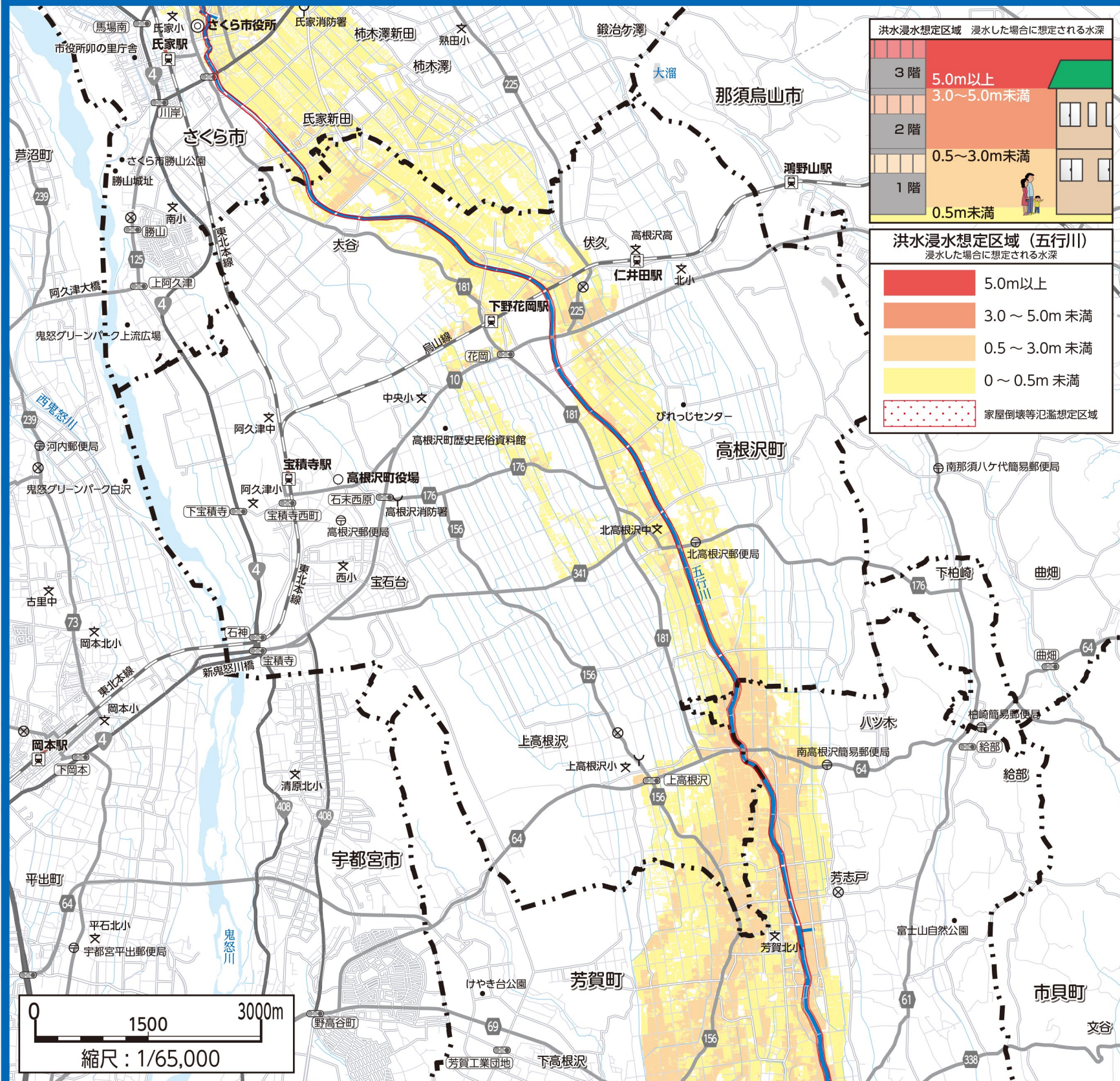


五行川（洪水浸水想定区域図）



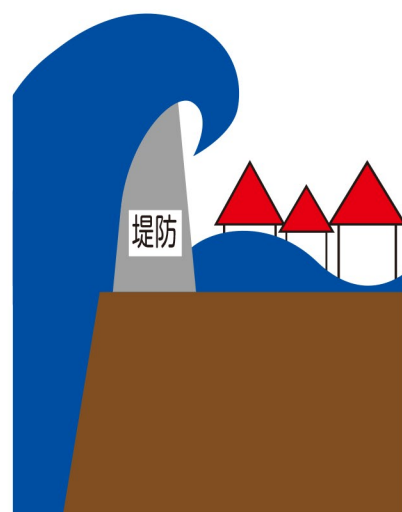
洪水災害について

地球温暖化の進行に伴って、日本では猛烈な雨（1時間降水量80mm以上の雨）の年間発生回数が増えています。大雨や短時間に降る強い雨の頻度はさらに増加すると予測されています。

外水氾濫

河川の堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して、家屋や田畑が浸水すること。

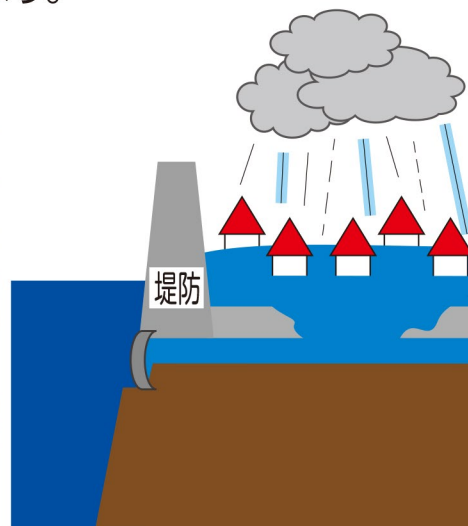
外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。



内水氾濫

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨を流しきれなくなることがあり、溢れ出した雨水により、建物や土地・道路が水に浸かってしまうこと。

雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。



適切な避難行動をとるために…

知っておくべき 5つのポイント

- 1 避難とは『難』を『避』けること**
自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。
- 2 避難先は学校・公民館だけではありません**
避難所が過密状態となることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。
- 3 マスク・消毒液・体温計が不足しています**
避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自ら携行してください（マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます）
- 4 避難場所、避難所の変更・増設を確認**
本書発行後に情報が変わる可能性もあります。あらかじめ町ホームページ等で確認してください。
- 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です**
やむをえず車中泊をする場合は、避難場所への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

- **避難所に入る前に**
感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。
- **換気の実施**
可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策も必要です。
- **手洗い、うがいをこまめに**
食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いを。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。
- **「3密」(密閉・密集・密接)の回避**
避難者どうし2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。
- **咳エチケットの徹底**
飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくてもマスクを着用しましょう。
- **日々の健康状態をチェック**
継続的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

